

短大生の「学習観」の醸成に関する研究

——第2学年「教育の方法と技術」を通して——

小林 賢司

帝京短期大学 こども教育学科

【抄録】

【目的】「学習観」は学習者の主体的で継続的・発展的な学習が展開されるなかで醸成されていく。本研究は、第2学年の学生が一単元（15時間）の学習を通してどのように「学習観」を醸成していくのか、その要因や変容の過程を究明するものである。

【方法】研究の方法は、45名全員を対象に「学習評価」と「学習観」に関する質問紙法による2つの調査と、学業成績別に抽出した6名の学生の追跡調査によるものである。なお、授業においては主体的な学習を促し「学習観」に対する意識を高めるために、全員に「わたしの学習評価」（表）を配付して継続的に記入させていった。

【結果】調査の結果明らかになったことは次の通りである。①「わたしの学習評価」を継続して記入することは、特に「復習」をはじめ「自己評価」や「学習の理解度を確かめること」などに効果的であった。②単元終了後に実施した「学習観に関する調査」によれば、全ての項目において73%を超える学生が「新たなものの見方・考え方が持てるようになった」「さまざまなことに興味・関心がわいた」「学習意欲が高まった」など多様な「学習観」を持つようになった。③抽出した学生の追跡調査によれば、学業成績の優劣にかかわらず、学習に対する意識の高まりとともに学習観の捉え方に広がりや深まりが見られた。しかし、一方で、その変容の内実は個々の学生の特性、能力、人生観、職業観などによって異なることが明らかになった。

【考察】学生が「わたしの学習評価」に記入したことは、学習観について関心を持ったり高めたりする方法として有効であった。また、学生は一単元の学習過程を通して4回にわたり学習観を見つめ直したことにより、徐々に学習観を醸成していくことが明らかになった。さらに、学習観が醸成されることは、単に学習に対する意識の変化にとどまらず、ひいては自己変革や自己実現へ導く因子として考えられる。

【キーワード】学習観、醸成、主体的な学習、自己評価、意識、変容

I. 目的

一単元（15時間）の学習を通して、学生がどのように「学習観」を醸成していくのか、その要因と考えられることやそこに内在する問題点を究明する。

お、全ての学生に対して本研究の趣旨を説明するとともに承諾を得た。

II. 方法

受講生45名を対象として単元の学習過程において「わたしの学習評価」（表）に記入させるとともに質問紙法による調査を実施した。また、「学習観」の変容を究明するために学業成績別に抽出した6名の学生の追跡調査を実施した。な

2. 調査時期

令和3年4月6日から同年7月27日まで。

3. 調査内容

(1) 「わたしの学習評価」に関する調査

最初の授業時に配付した「わたしの学習評価」（表）が学生にとってどのように役立ったのか、5つの項目を設けてその実態を調査した（Table 1）。

(2) 「学習観」に関する調査

一単元の学習を通して、学生が実際にどのよう

な「学習観」を持つようになったのか、15回目の授業終了時に、「学習観」に内包する10の項目を設け、各項目ごとに段階的評価を実施した^{1, 2)}。

(3) 「学習観」についての抽出調査

抽出した6名の学生が「わたしの学習評価表」に4回にわたって記してきた「学習観」に対する考えを追跡調査した。

4. 調査における指導上の手立て

(1) 「わたしの学習評価表」に記入する

「学習観」に対する意識を持続し高めていくために、学習過程の最初・中程・最後(1・4・11・15回目)に「わたしの学習評価」(表)に記入させた。

(2) プリント教材を配付する

「学習観」を醸成していくには主体的な学習を促す必要がある。そのために、予習や復習を勧めるとともに常に学習内容を確認できるように、前時に次のプリント教材を配付した。

(3) 小論文と小テストを実施する

学習意欲を喚起させるとともに、学習内容を確実に理解させたり自己評価をさせたりするために、小論文を第4・11回目に、小テストを第

6・12回目に実施した。

Ⅲ. 結果

1. 「わたしの学習評価」に関する調査から

「わたしの学習評価」(表)に記入したことが、どのように役立ったのかを把握するために下記のように5つの項目(選択肢)を設け、それぞれ5段階による評価をさせた。

5	大いにそう思う
4	そう思う
3	どちらともいえない
2	そう思わない
1	全くそう思わない

※グラフ内の上段は人数、下段は割合を表す。

2. 「学習観」に関する調査から

一単元の学習を通して、学生がどのような「学習観」を持つようになったのかを明らかにするために、「学習観」に内包される10の項目を設け、それぞれ5段階による評価をさせた。

※表示の仕方は「Ⅲ. 結果1」と同様である。

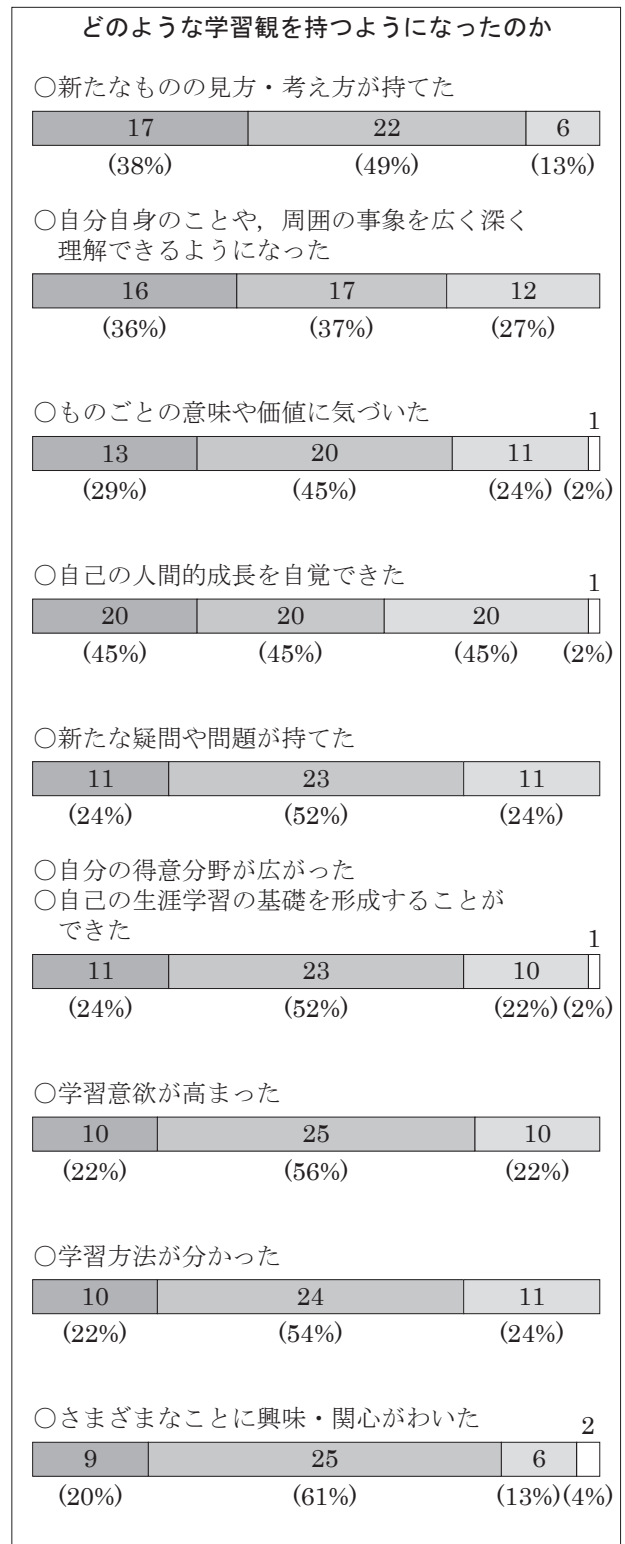
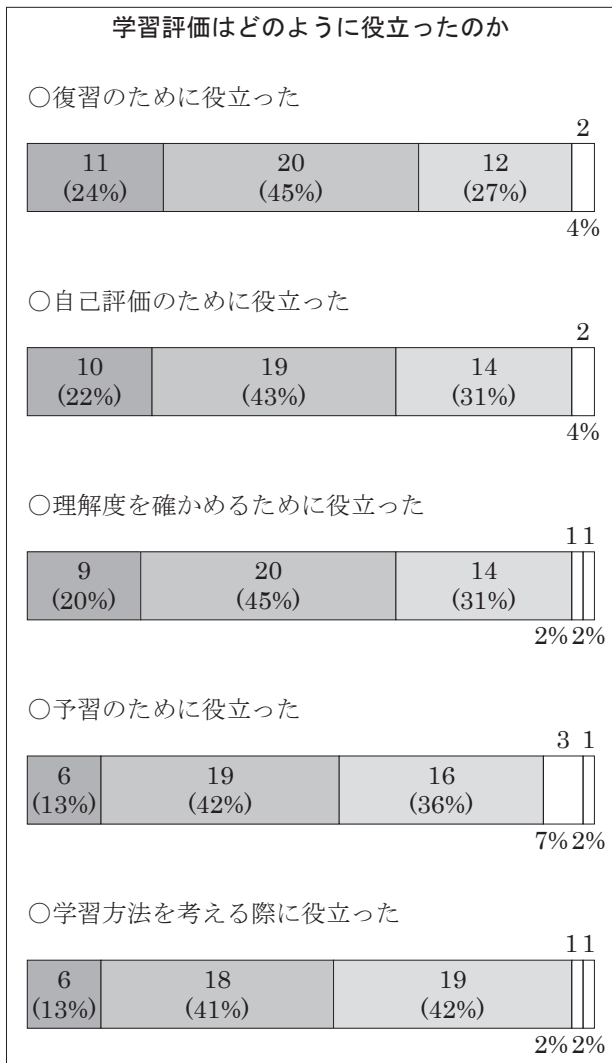
Table 1. わたしの学習評価 ～「教育の方法と技術」を通して～

1回目および4・11・15回目に提出

【氏名】

これまでの学習に対する評価	残された疑問や課題(分からない用語など)	今後の学習(抱負、要望、学習方法など)

【わたしの学習観】を記入する。(「学習とは何か」「学習は何のためにするのか」「学習に対する考え」など)



3. 「学習観」に関する抽出調査から

表中の文は、抽出した6名の学生が「学習観」について4回（①から④は1回目から4回目を表す）にわたって記述したことの記録である。

なお、下の㉞と㉟は4回目の記述の際に設定した「質問」である。また、各学生の欄の破線以下の文はその際に学生が記した「回答」である。

㉞ わたしの学習評価を4回にわたって記入したことによって、あなたの学習観はどのように変わってきたと思いますか？

㉟ 「学習観が変わった」「学習観が深まった」などと思った人は、その契機となったことや原因と思うことを書いてください。

A グループ	M 子
①学習は将来の社会を担い、つくるために必要です。	
	↓
②知識を得ることも大切ですが、それを自分なりに実践していくというところまでが学習だ	

と思う。



③計画を立てて行動に移して、省察、改善するという一連の流れが保育における学習だと思う。



④社会を担っていく一人として必要な知識や

技術を身に付ける。また、社会の変化に合わせて、その都度学習することが重要となる。	
⑦幅広く物事を捉えられるようになった。 ①学習していくうちにだんだん変わってきた。	
A グループ	Y 男
①学習とは身になり活かしていくものである。 ↓	
②学習とは、知識、能力、価値観などを新たに獲得したり修正したりすることである。また、未来の世界を切り拓くものである。 ↓	
③学習することで自分を知り、よりよい考え方や生き方を学ぶことができる。 ↓	
④学習とは、学び、習うことの観点（見方・考え方）である。	
⑦全てを押さえようとせず、要点を押さえいくことが大切だと思うようになった。 ①「わたしの学習評価」を数回書いたことで、自分がどう学べばいいかが分かってきた。	
B グループ	F 子
①大学では先生から学び、園では子どもから学ぶ。 ↓	
②学習とは成長であり、成長すればするほど学習能力は伸びると思う。 ↓	
③学習は将来の子どもたちのためにある。また、担任になり、親になって必要なことだと思う。 ↓	
④学習はまず自分が学び、学んだことを子どもたちや保護者につなげていくことが大事です。	
⑦自分のためから将来の子どもたちのためへと変わった。 ①幼稚園や保育所について学んだり、実際に実習に行ったりした際に少しずつ変わってきた。	
B グループ	H 男
①学習は知識の幅を広げるためにする。 ↓	
②将来困らないために学習は大切である。 ↓	
③学習することで新しい知識を身に付け、将来社会に出た時に困らないようにする。 ↓	
④一つ一つの学習をしっかりと身に付けること	

で、将来社会に出る時に困らないようにする。	
⑦ただ聞いているだけでは身につかない。何度も努力することが大切だと思うようになった。 ①今までは何が分からないのか、あまり分かっていなかったが、改めて振り返ることによって、自分の何がいけなかったのかを認識するようになった。	
C グループ	T 子
①学習は将来困らないためにします。 ↓	
②学習は、実際に社会に出た時に活かせるように、知識や技術を習得するために大切です。 ↓	
③学習は、自分の知識や経験、スキルを増やすためのものです。 ↓	
④学習とは、自分に合った勉強の方法を工夫することです。	
⑦教育の方法などを知るようになり、子どもに寄り添える保育者になりたいという気持ちが大きくなりました。 ①特にありません。	
C グループ	N 男
①学習することは将来のためになる。 ↓	
②学習は自分にとって今頑張ることであり、学生にとっての仕事だと思う。 ↓	
③学習とはよい人生を送るために必要で、自分以外から学び知ることである。 ↓	
④学習はよい人生を送るために最も重要である。	
⑦学習に対しての考え方が変わった。 ①自分の将来を考えるようになって、しっかり学習しようと思うようになった。	

IV. 考察

1. 「わたしの学習評価」の有用性と有効性

「復習のために役立った」「自己評価のために役立った」「理解度を確かめるために役立った」を選択したうち、「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせると 65%から 69%に達している。また、同様に、他の「学習方法を考えるために役

立った」「予習のために役立った」も54%から55%であった。このことから、「わたしの学習評価」に記入することは多くの学生にとって一定の有用性と有効性があることを示したと言えよう。

また、同時に実施した調査では、「わたしの学習評価を4回にわたって記入したことで、あなたの学習観はどのように変わったか」と質問したところ、次のような意見が寄せられた。(かっこ内の数字は複数回答を表す。)

- ・学習に対する考え方や意識が変わった。(3)
- ・学習について、これまでより少し高い考えを持つようになった。(2)
- ・ものごとを広く考えられるようになった。(2)
- ・一つのことについてさまざまな視点から考えられるようになった。(2)
- ・文字で書くことによって学習することの意味に気づいた。
- ・学習はすればするほど、いろいろなことが分かってくる。
- ・自分の学び方について考えるようになった。

この結果からも、「わたしの学習評価」(表)に記入することの有用性と有効性を立証し得るものといえる。

2. 「学習観」の捉え方

全体的に見ると、「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、全10項目で最低でも62%を超えた。これに対し、「そう思わない」と「全くそう思わない」と評価したのは4項目であり、それもわずか2%から4%にとどまった。このことは、多くの学生が提示された全ての項目を容認するとともに、「学習観」を多面的・多義的に捉えることができるようになったものと推測することができる。

また、ここでまず注目したいことは、「学習観」に最も関連する「新たな見方・考え方が持てるようになった」「自分自身のことや、周囲の事象を広く深く理解できるようになった」「ものごとの意味や価値に気づいた」が上位3位を占めたことである。このことから、多くの学生は「学習観」を的確に捉えているといえる。

次に、学生が「自己の人的成長を自覚できた」「自己の生涯学習の基礎を形成することができた」を高く評価したことに注目したい。ここには、日常はあまり意識することはなくても、学

生の捉える「学習観」の背景には人間的な成長に繋がる資質や生涯学習に対する関心の高さが窺える。

さらに、「学習観」を「自分の得意分野が広がったこと」「学習意欲が高まったこと」「学習方法が分かったこと」「さまざまなことに興味・関心がわいたこと」と捉えた学生からは、自己のよさや可能性に気づき、今後も学習への意欲や期待感を一層高めていこうとする気概を感じさせられる。

以上のことから、この機会を通して、学生が改めて「学習観」に触れ、新たな視点から自らの考えを広め深めたことは、学習のみならず、今後の自己の在り方や生き方について思慮し、ひいては自己覚醒や自己実現を図っていく上でも大きな意味があるものといえる。

3. 学習観の変容—6名の追跡調査を通して—

ここでは、抽出した6名の学生(前期の学業成績を参考に、上・中・下位に分け、それぞれA・B・Cグループとした)の追跡調査を基にその変容の要因などについて考察する。

[M子 (Aグループ)]

熱心に勉学に励むM子は、しっかり学習することによって、よりよい保育者になることを目指している。本人が記しているように、「学習観」は授業の進行とともに、知識の獲得から確かな実践へ、そして省察し改善するという「一連の流れ」を通して身につくものと捉えている。そして、この考え方に立って保育者として社会に役立ちたいという願いを抱いている。

さらに、単元終了時に実施した調査の質問(学習観はどのように変わってきたか)には、「幅広く物事を捉えられるようになった」と回答している。それはまさに、彼女の言う「一連の流れ」のなかで醸成されていったものと受け止めることができよう。

[T男 (Aグループ)]

常に真面目に学習に取り組んでいるT男は、既に4回目の授業後に「学習とは、知識、能力、価値観など・・・」と記している。そして11回目には「自分を知り、よりよい考え方や生き方を学ぶことができる」とも記している。

また、単元終了時に実施した調査(学習観はどのように変わってきたか)では「全てを押さえていこうとするのではなく、要点を押さえていくこ

とが大切だ」と答えている。さらに、同調査（学習観が深まった契機は何か）では、「わたしの学習評価を数回書いたことで自分がどう学べばいいか分かってきた」とも記している。ここにT男の捉える「学習観」の全てが語られている。

[F子 (Bグループ)]

真摯に学ぶ姿勢を持つF子は、既に自分が保育者になることを想定して日々学び続け、「学習観」を深めてきている。F子は地元に戻り、近隣の幼稚園で働きたいという強い願望を持っている。

実際に、幼稚園や保育所での実習を通して、その思いはますます高まってきた。それは「学習観はどのように変わったか」という問いに対して、「自分のためから将来の子どもたちのためへと変わった」と答えたF子の言葉に滲み出ている。

[H男 (Bグループ)]

H男の学習に取り組む姿勢はやや消極的だが、学習の大切さは十分理解しており、1回目の授業後に記入した「わたしの学習評価」には「学習は知識の幅を広げるためにする」と書いている。

特に注目したいのは、単元終了時に「学習観の変化とその契機になったこと」について、「何度も努力することが大切だと思うようになった」「改めて振り返ることによって、自分の何がいけなかったのかを認識するようになった」という言葉である。ここには彼の実体験に基づいた心からの思いが如実に表れている。

[T子 (Cグループ)]

T子はおとなしい性格でほとんど発言することはないが授業態度は真面目である。当初は「学習観」について「将来困らないため」と言っていたが、次第に学習の重要性を認識し、最終的には「自分に合った勉強方法を工夫する」という考えに至った。

単元終了時に実施した調査で、T子は「学習観はどのように変わったか」という問いに対して「教育の方法を知るようになり、子どもに寄り添える保育者になりたいという気持ちが強くなった」と記した。

決して問いに正対している回答とは言えないが、少なくとも「わたしの学習評価」に記入してきたことを通して、このような確信に至ったといえよう。

[N男 Cグループ]

N男は集中力が持続せず理解力も劣るが、性格的には明るく社交的である。最初は「学習は将来のためにある」と漠然と答えていたが、4回目・11回目になると、学習に対する捉え方や意味づけに変化が見られるようになり、「よい人生を送るために最も重要である」と結論づけるに至った。

単元終了時には、「学習観」とは直接結びつかないものの、「学習に対しての考え方が変わった」「自分の将来を考えるようになって、しっかり学習しようと思うようになった」と記している。このことはまさにN男の内面的な成長といえよう。

4. 新たな視点から見た考察

1) 「わたしの学習評価」の活用

学生が「わたしの学習評価」(表)を活用したことは、少なからず主体的な学習を促すとともに、結果的に「学習観」を広げたり深めたりしていくことに有効性を見出すことができた。

調査を通して、「復習」をはじめ「自己評価」や「理解度を確かめること」に役立ったと回答した学生の割合は、「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせると69%から65%となり、多くの学生もその有効性を認めている。

2) 多様な「学習観」の醸成

「学習観」が内包する10の項目を提示して学生に選択させたところ、「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせた割合は最大で87%、最小で74%となり、学生はほとんどの項目を受容した。特に「新たな見方・考え方が持てるようになった」「さまざまなことに興味・関心がわいた」「学習意欲が深まった」が上位3位までを占めたことに注視したい。

学生は本実践を通して多様な「学習観」に触れながら、自身の捉え方や考え方にそぐうものを何らかのかたちで吸収し醸成していったものと思われる。

3) 6名の学生の変容

個性も能力も異なる6名の学生であるが、学業成績の優劣にかかわらず、授業の過程において、どの学生にも学習意識の変化や自己変革などが見られた。また、「学習観」の捉え方にも影響を及ぼし、既に自身が持っていた「学習観」に質的転換を図ることにもなった。

しかし、学生が捉えている「学習観」の内実

は、一様に個々人の特性、能力、人生観、職業観などによって異なってくることもが明らかになった。

4) 学生を抽出する基準

本研究では、学生を抽出する基準として「学業成績を基にしたが、このほかにも次の視点が考えられた。その1つは、調査の信頼性や精確性を高めるためにも、抽出した学生への「面接調査」を採り入れる必要があったことである。もう1つは、意欲的・主体的な学習を促す「当該科目に対する学生の関心度や重要度」である。

【文献】

- 1) 高山章二 (2000) 「大学生の学習観の特徴と構造」島根大学教育学部紀要, pp.1-10
- 2) 高山章二 (2003) 「学習観とその規定要因および学習方略との関係」島根大学教育学部紀要, pp.19-26
- 3) 市川純夫 (1996) 「学習観の転換をめぐる論議の検討」和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, pp.49-58

Research on Creatin a “view of learning” ——through the second grade “Educational methods and techniques”——

Kenji KOBAYASHI

Department of Early Childhood Education, Teikyo Junior College

【abstract】

【Purpose】 The “view of learning” is created in the process of developing learners’ independent, continuous and progressive learning. This research investigates the and the process of transformation of haw students in the second grade develop a “view of learning” through learning in one unit(15hours).

【Methods】 The research method is based on two surveys of all 45studennts using the questionnaire method regarding “learning evaluation” and “view of learning”, and a follow-up survey of students extracted by academic performance. in addition, in the class, in order to encourage independent learning and raise awareness of “view of learning”, “My learning evaluation”(table) was distributed to all students and asked to fill in continuously.

【Results】 As a result of the investigation, the following was clarified. (1) Continuing to fill in “My learning evaluation” is learning”.(2)From the “Survey on View of Learning” conducted after the unit, more than 73% the students have come to have various “view of learning”. For example, “become of to have new and way of thinking” and “interested in various things” and “increased my motivation to learning”. (3)According to the foll0w-up survey of the extracted students, regardless of their academic performance, the awareness of learning increased and the way of understanding the view learning expanded and deepened. However, on the other hand, it become clear that the truth that it depends on the characteristics, abilities, outlook on life, and outlook on profession of each student.

【Discussion/Conclusion】 What the students filled out in “My learning Evaluation” was an effective way to increase their interest in and enhance their outlook on learning. In addition, it become clear that the students gradually cultivated their views of learning by reviewing their views of learning four times through the learning process one unit. Furthermore, the fostering of a view of learning is considered to be a factor that leads to self-transformation and self-actualization, not just a change in consciousness for learnig.

【Key words】 view of learning, create, independent learning, self-evaluation, consciousness, transformation